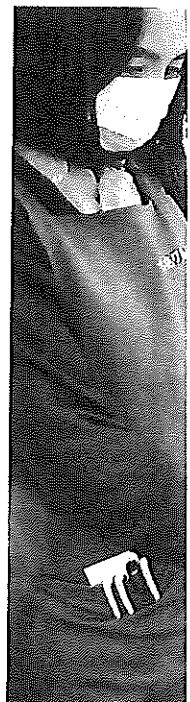


# 現



「論語と算」  
=15日、鳥

## クラウドで業務効率化

米子のウチダレック

### 実践コン全国大会へ

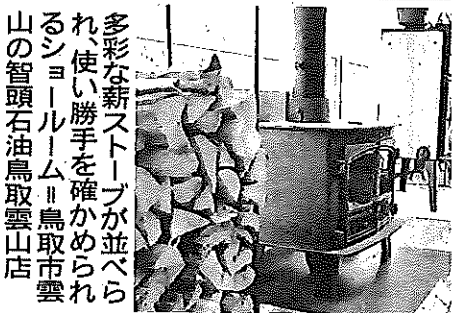
「CLOUD IN IT I ACTIVE(全国中小企業クラウド実践大賞)」の「クラウド実践コンテスト岡山大会」(実行委員会主催)で、不動産事業などを展開するウチダレック(米子市新開6丁目)が最優秀賞に相当する中国総合通信局長賞を受賞した。同社は地方大会の上位2社が参加できる全国大会(1月28日・東京都)に出場する。同コンテストは、企業がクラウドサービスの活用による収益向上や業務効率化の実践事例を発表。活用度▽浸透度▽革新性▽熱意の4項目で審査し、優良モデルを選出する。地方大会は全国5カ所で開かれ、岡山大会は書類審査を通過した8社が出場した。同社は、内田光治専務(34)がモットで参加。クラウドの活用により紙ベースで管理していた契約などの資料をデータ化した結果、

情報の共有が可能になり、部署をまたがる業務の連携もスムーズになったことを強調した。また、従来のマンパワーに頼るやり方から脱却し、業務が効率化。分業化が進んだことで週休3日制を導入した一方、営業利益は向上したと発表した。内田専務は「人口の少ない鳥取県でも、クラウドを活用することで企業は成長できる」とが証明できた」と振り返った。

全国大会に向け、内田専務は「鳥取県は小さな県だが、今は逆境をプラスに変

は、鳥取商工会議所の児嶋祥悟会頭。同商議所では今年、会頭の肝いりで論語勉強会を開催する。対象は、

えられる時代。やり方次第で十分に生産性を高められることを、全国でも自信を持って紹介したい」と意気込んでいる。(岡野耕次)



の拠点であり、多くの人が訪れる同店一階を改装し、ショールームとしてオープンした。新ストープは、煙突などの工事状況などにより導入費用が100万円から120万円程度となる上、1シーズンで1、2才使用する燃料を体験して薪の置き場所も必要。自然呼び掛けている。

も高く、各自治援もある。興味ぜひ実際に見て一ポニユート燃料を体験して呼び掛けている。

## 地域では「はたし」



冬は1以上の積雪に覆われる伯耆町宮原地区。つづら折りの山道の中に、こじんまりとした事務所がぽつんと立つ。亀山博之さん(68)が経営する「エーアンドエフ」だ。山野草の生産販売や食品卸など多彩な事業を手掛け、豊かな自然が育んだ地域資源の発信に情熱を注ぐ。

調理師として米子市内の中華料理店で働いていたが、山里の暮らしにあらがれ、20代半ばで同町に移住。大山麓の土地を数千万円の借金で購入し、シイタケ栽培からスター

### 亀山博之さん「エーアンドエフ」(伯耆町)



ハウスで栽培した春の七草を手入れする亀山さん(伯耆町)

トした。進めた。経営を後押ししたのが商工会だ。資金繰

「自分で育てた物は自分で売りたい思いが強かった」と生産性向上などの助言振り返る亀山さん。休日のたけ、補助金制度の情報をびにスーパーや個人商店などこともできた。「1人への飛び込み営業を繰り返走っても限界がある。商し、地道に販路を拡大。需要は大きな存在」と話す。に応える形で事業の多角化を スギヤヒノキの苗、ヨモ

# 地域資源の発信に情熱

# 地域経済 ウオのチ



岡山大会で中国総合通信局長賞を受賞し、全国大会に向けて意気込む内田専務=米子市新開6丁目のウチダレック